

Smart Clinic United

Paper Smart

特集

おとな皮膚科に着任

山崎 悟 医師インタビュー



2026 09

TAKE FREE

外反母趾の手術は、曲がった親指の見た目を整えるだけのものではありません。親指を本来の位置に近づけ、足全体のバランスと機能を整えることで、痛みを軽減し、歩きやすさを取り戻すことが大きな目的です。

外反母趾が進むと、親指で地面を十分に蹴れなくなり、足裏など別の場所に負担がかかるほか、靴に当たる痛みや治りにくいタコが生じることもあります。まずは靴の見直しやインソール作製などの保存療法を行い、それでも強い痛みが続く、合う

外反母趾の手術で何が変わる？
歩きやすい足を取り戻す治療

スマクリの
健康チャンネル

スマクリTV



YouTube

今回の動画はこちら



QRコードを
読み込んで
ご視聴ください

靴がない、歩行に支障があるといった場合に手術を検討します。手術方法は多数あり、変形の程度や足の状態に合わせて選択されます。また、必ず手術が必要わけではありません。何に困っているのか、何を改善したいのかを医師と十分に相談し、治療方法を決定することが大切です。

術後は、足の指が元の位置へ戻ろうとする力を抑えるため、指の間にシリコンを挟むなどのケアも重要です。治療後に歩ける距離が延び、外出や日常生活をより楽しめるようになることも期待できます。詳しくはスマクリTVをご覧ください。

SMART INFORMATION

おとな皮膚科の診察日が増えました！

「おとな皮膚科」が新たに月曜日・火曜日にも診療を行うことになりました。ライフスタイルに合わせて受診しやすくなりました。どうぞお気軽にご相談ください。

【診療日】

月・火・土曜 10:00～13:00/15:00～17:00(土曜日の2,4週は午前のみ)

【ご予約】

0572-21-1770

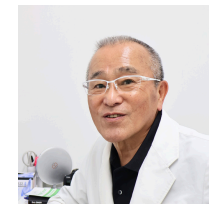


発行：多治見スマートクリニック広報（発行日2026年9月1日）

〒507-0015 岐阜県多治見市住吉町7丁目27-27

本誌に掲載されている記事、写真、図表などの著作権は、スマートクリニックまたは著作者に帰属します。無断での複製、転載、翻訳、販売などを禁じます。また、本誌に登場する体験談は、個人の見解に基づくものであり、これをもって一般的な効果や結果が保証されるものではありません。

おとな皮膚科に着任



山崎 悟 医師
Yamazaki Satoru
皮膚科一筋50年。
趣味は旅行とゴルフ。



今回は8月におとな皮膚科に着任された山崎悟医師にお話を伺いました。経験豊かでユーモアあふれる人柄が魅力的な山崎医師。皮膚のことならどんなことでもご相談ください。

Q 皮膚科の医師を志したきっかけは？

研修医のときに信頼できる先生に出会ったこと、医師である父の勧めがあったことが皮膚科を志したきっかけでした。その後、皮膚科だけでなくペインクリニックにも携わり、神経ブロックなども経験しました。振り返ると、いろいろな先生とのご縁に導かれて今があるのだと思います。

Q 診療で大切にされていることは何ですか？
一番は、ゲストに「来てよかった」と思っていたことです。

皮膚科は、皮膚という目に見える部分を扱います。顔や体に症状が出ると、とても気になるものです。「たかが皮膚科、されど皮膚科」なんですよね。だからこそ、ゲストがどんなことに困っているのか、どんなことを望んでいるのかをきちんと聞き、その方にとってより良い方法を一緒に考えていきたいと思っています。

Q どんなときに皮膚科を受診すればよいですか？

「これくらいで病院に行っていないのかな」と思わず、皮膚がおかしいと思ったら、受診してください。皮膚の症状は、自己判断で市販薬を塗ったり、いろいろなものを試したりしているうちに、症状が分かりにくくなってしまうことがあります。

「ちょっと気になる」という段階でも構いません。症状がひどくなってからではなく、早めに相談してください。

Q 先生の趣味や休日の過ごし方を教えてください。

旅行が好きで、以前は、まとまった休みを取って海外にもよく行っていました。アジアをいろいろ回ったほか、ロシアにも行きましたし、ゴルフが好きなのでスコットランドやアメリカにも行きました。

Q 最後に、ゲストの皆さんへメッセージをお願いします。

ゲストがどんな気持ちでここに座っているのかを考えながら、安心して診察を受けていただけたようにしたいと思います。そして、帰るときに「来てよかった」と思っていたら、それが一番うれしいですね。皮膚のことで気になることがあれば、遠慮せずに来てください。

耳鼻咽喉科の風だより

OTO NEWS



耳鼻咽喉科中川医師が皆さまに送る、耳・鼻・喉のちょっとした話。
今回は加齢性難聴についてお話しします。

体温計のピピピッが聞こえない!?
それ、加齢性難聴かもしれません

加齢に伴う難聴の特徴の一つは、初期段階では高い音から聞こえにくくなることです。タイマー音や体温計の音、子供の高い声が聞き取りにくいと言う特徴があります。また、高音域の聞こえが悪くなると、子音の聞き分けが悪くなります。顕著なのは“サ行”“ハ行”“カ行”です。例えば、「佐藤さん」と「加藤さん」を聞き間違えたり、「七時（しちじ）」と「一時（いちじ）」を聞き間違えやすくなると言われています。

加齢性難聴の特徴は他にもあります。左右同じペースで、徐々にゆっくりと進行することです。そのため、自分が難聴になっていることに気づきにくいのです。逆に「ある日突然」「片方の耳」の難聴なら、別の原因が考えられます。治療によって改善する見込みがあります。「聞き返し」「聞き違い」が多くなったら、まずは耳鼻咽喉科を受診しましょう。耳鼻咽喉科では、65歳以上の方には難聴の自覚がなくとも1年に1回の聴力検査をお勧めしています。

まずは5つのセルフチェック



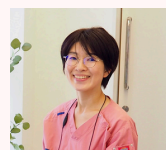
- 聞き間違いが多い。
- 相手の言ったことを推測で判断することがある。
- 会話の際に聞き返すことがよくある。
- テレビやラジオの音量が大きいとよく言われる。
- 電子レンジの音やドアのチャイム音が聞こえにくい。



1つでも当てはまった方は
聴力検査をお勧めします。

聴力の低下は40代から始まると言われています。難聴にも様々な種類があります。どうぞお気軽にご相談ください。

今回教えてくれたのは



中川 佐和子
耳鼻咽喉科院長
多治見市出身
県立多治見北高等学校卒業
旅行が大好き